

教 育 研 究 業 績

2021年5月1日

氏名：鈴木 誠二

学位：経営学修士（専門職）

| | | |
|--|---|---|
| 研 究 分 野 | 研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド | |
| 地域研究 (政策学) | 地域イノベーション、コミュニティビジネス、農観ビジネス、 地方創生インターンシップ、地域マイクログリッド | |
| 主要担当授業科目 | 地域産業論、地域プロデュース論、観光デザイン ベンチャービジネス論、現代ビジネス講座、インターンシップ | |
| 教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 産学連携による インターンシップの推進 | 平成 29 年 4 月～平 成 31 年 9 月 | 東京成徳大学経営学部経営学科における正規教育過程のインターンシップにおいて、インターンシップ受入企業をゲストスピーカーや発表コメント等で参画いただきながら講義を実施した。また、地方創生インターンシップの一環で、みなかみ町体験旅行を中心に産学官連携を果たした。 |
| 2 作成した教科書, 教材 | | |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価 | | |
| 4 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1) 地域活性シンポジウム開催 「みなかみ町“魅力の創造”」 | 平成 25 年 12 月 | 法政大学地域研究センターの研究者として、農泊による地域活性化に成功したみなかみ町より、次の政策立案に向けたシンポジウムの開催要請を受け開催シンポジウムを開催した。主な参加者は、みなかみ町岸町長、観光協会常務理事丁野氏。その結果、過去最大の収容人数を記録した。 |
| 2) 地域活性シンポジウム開催 「農業ビジネスモデルと6次産業」 | 平成 30 年 1 月 | 法政大学地域研究センターの研究者として、出版した弊著をもとに、農水省地域振興課と提携してシンポジウムを開催。農泊のビジネス実施地域の拡大に向け実施した。 |
| 3) 日本版DMOセミナー開催 「みなかみ町観光協会(地域DMO)/群馬県 観光物産国際協会(地域DMO)」 | 平成 30 年 11 月 | 法政大学地域研究センターの研究者として、みなかみ町との産学官連携を通じて、セミナー開催の要請を受け開催。参加者は、代表理事含め、8名。海外DMOの成功要因・小粒の観光資源を編集によるDMO成功要因・DMOの活動資金・KPI設定の考え方に関して意見交換を実施した。 |
| 他 | | |
| 5 その他 | | |

| 職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項 | | |
|---|----------------------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格, 免許 国内旅行業務取扱管理者 | 平成 16 年 | 一般社団法人 全国旅行業協会 |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 地域マイクログリッド形成に向けた事業開発 | 平成 31 年 4 月～令 和 3 年 3 月 | <p>エネルギー系の CVC において、省庁や自治体、大手リテーラーとの実証実験や概念実証 (POC) に取り組んだ。</p> <p>「主な取組み」</p> <p>① HEMS (Home Energy Management Service) の早期実現に向けたガイドシステムの構築に向け、大手リテーラーと概念実証 (POC) を行い、プロトタイプングを組成した。 (平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月)</p> <p>② 脱炭素化に向けた太陽光発電設備導入拡大に向けたウェブサイトの活用に関して、環境省、神奈川県と協議しながら、小田原市とプロモーション構築に関する協定を締結し取り組んだ。 (令和 2 年 1 月～令和 2 年 9 月)</p> <p>③ 小田原市のエネルギー政策の実現に向け、蓄電池等の分散型エネルギーリソースを活用した VPP (Virtual Power Plant) の構築に関して小田原市と協議した。 (令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月)</p> |
| 4 その他 | | |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---------------------------------------|---------|-----------------|----------------------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| 1. みなかみイノベーション (農泊を核とした観光まちづくり) | 単著 | 平成 29 年 10 月 | あさ出版 | 法政大学地域研究センターの研究者として、農林水産省が進める「農泊を核とした観光まちづくり」のモデル地域として取り上げられた地域のフィールドワークを観光まちづくりのロールモデルとしてまとめたもの。観光まちづくりの要件として、①思考を、物事を正しい方法で正しいレベルまで考えられる、クリティカルシンキングを定着させること。②育成は、農家へのアントレプレナー教育を促し、取組みを事業化させること。③資源は、遊休資源とし、融合やコラボレーションで資源の拡大を図ると示した。 |
| 2. クルマが家電となる日 (これ一冊で、モビリティ革命の全容がわかる！) | 単著 | 令和元年 8 月 | あさ出版 | 法政大学地域研究センターの研究者として、モビリティ革命を活性化させるための一例を、フィールドワークの研究論文及び、自身の事業開発事案をもとにまとめたもの。モビリティ革命を生活者視点で活性化させるための条件として、CARS (日常生活との結合、生活者の自動反応を触発する環境整備、生活文化の定着に向けた啓発の繰り返し、サービスの分配) というコンセプトを提言した。 |
| (学術論文) | | | | |
| 1. 地域のモラルを喚起した地域コミュニティの醸成 | 単著 | 平成 26 年 3 月 | 地域活性学会 地域活性研究 VOL. 5 | 地域資源を活用し、地域住民が参画する事業開発要件を、「こども農山漁村交流プロジェクト」を用いて明らかにした。 |
| 2. 中山間地域の自動車生活を支える地域イノベーション | 単著 | 平成 28 年 3 月 | 地域活性学会 地域活性研究 VOL. 7 | 地域住民による共同経営拠点の創出と、発展を促す住民活動のあり方を、過疎地域における SS 経営を用いて明らかにした |
| 3. 過疎化が進む中山間地域の生活を向上させる地域イノベーション | 単著 | 平成 29 年 3 月 | 地域活性学会 地域活性研究 VOL. 8 | 生活圏を拡大し他のコミュニティと新たな関係構築を可能にする拠点要件を、地域のホームセンターを用いて明らかにした。 |
| 4. 地方創生インターンシップ活用による地域の活性化 | 単著 | 平成 30 年 4 月 | 地域活性学会 地域活性研究 VOL. 9 | 地方企業の慢性的な人手不足を解消する新たな人口還流の構築に向けた地方創生インターンシップの展開要件を、みなかみ町の取組みを用いて明らかにした。 |
| 5. 正規の教育過程による地方創生インターンシップの実施条件 | 単著 | 令和元年 9 月 | 地域活性学会 地域活性研究 VOL. 11 | まち・ひと・しごと創生の政策にある地方創生インターンシップの取組み要件を、事例をもとに明らかにした。 |
| 他 | | | | |
| (その他) | | | | |
| 1. 群馬の最北端で見た新たな「観光資源」の正体 (寄稿) | 単著 | 平成 29 年 11 月 | 東洋経済 オンライン | 著書の「みなかみイノベーション」をもとに、新たな観光資源としての農泊を紹介。 |
| 2. 過疎化が進む中山間地域の生活向上に向けて (寄稿) | 単著 | 平成 29 年 12 月 | 現代 QOL 学会誌 (ニュースレター NO. 9/10) | 地域生活の QOL は、過疎・高齢化に伴い低下する。その様な環境においても、QOL の維持・向上させる為の方策を紹介。 |
| 3. クルマをサービス起点として考える時代の勝機 (寄稿) | 単著 | 今年元年 11 月 | 東洋経済 オンライン | 著書の「クルマは家電になる」をもとに、次世代ユーティリティの活性化に向けた CARS というコンセプトを紹介。 |

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。